

まんさく

第283号

発行

特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電

祝百歳
おめでとう



石川タカさん、百歳おめでとう！
みんなが一緒におめでとう

光寿会R4テーマ「続・知る」を軸に上半期検証&下半期目標設定

【事務】「①事務部門」 ☆氏家洋也☆

法人キーワード		令和4年度共通のキーワードは『続・知る』	
令和4年度上半期のイメージ	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想上半期	目 標 ①	目 標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>お年寄りのご家族の面会について、その人にあった最良の形を知ろう。</p> <p>①プライバシーを確保できる環境づくりを行い、お年寄りのご家族ともに安心して、オンライン面会を利用できるようにする。</p> <p>②ユニットにも要望などを聞き取りしてもらい、それを実現できるように環境づくりを進める。</p>	<p>家族との繋がりを大事に考え、何が必要か知ろう。</p> <p>①ホームページを通じて、施設やお年寄りの日常の様子を伝えられるような記事内容で、情報発信をする。</p> <p>②施設を身近に考えてもらえるよう、日頃から丁寧な対応を心掛ける。</p>



令和4年度上半期検証【テーマ】	<p>※何事も実際に自分の目で確認する事を心がけた。</p> <p>※出向くことで、具体的に見えてくることを改善または、情報発信に活かすことができた。</p>
令和4年度上半期検証【各目標】	<p>目標① ※感染症予防対策をとり、オンラインではなく、対面方式による面会をできる限り実施できており良かった。 ※全ての面会方式において、せせらぎで面会する事により、お年寄りのご家族のプライベート空間を作る事が出来ていると思うが、窓越し面会については、天候などにより良い環境では無い時もあるので、今後他の部署含め確認したい。</p> <p>目標② ※当番制で、毎月お年寄りの様子を中心にブログを更新出来た。 ※電話対応や面会時に、一方的な話にならない様ご家族の思いを汲み取りながらの会話を努めた。また、施設を身近に感じていただけるように丁寧に対応することができた。</p>



令和4年度下半期のイメージ		自ら出向き相手を知ろう	
令和4年度下半期のイメージ	テーマ	自ら出向き相手を知ろう	
	理想下半期	目 標 ①	目 標 ②
	具体的な取組み (いつ、何を、どのように)	<p>相手の状況を知り、臨機応変に対応する。</p> <p>①自分の仕事に捕らわれず、他部署で何が起きているかを把握し、自分が係れるものには係っていく。</p> <p>②お年寄り、ご家族、職員への橋渡しをスムーズにできるようにする。 〔電話対応・面会対応等〕</p>	<p>家族との繋がりを大事に考え、何が必要か知ろう。</p> <p>①ホームページを通じて、施設やお年寄りの日常の様子を伝えられるような記事内容で、情報発信をする。</p> <p>②施設を身近に考えてもらえるよう、日頃から丁寧な対応を心掛ける。</p>



華麗なる踊り子の面影、永遠に…♡



『今生より』

藤原 エミ さん【95歳】

踊りや民謡が大好きなエミさん。「やあ～(あなた)も、踊え♪と私たち声を掛けて下さいました。エミさん、踊って唄って、皆を楽ませして下さいました。食事は残さず、「美味しい、美味しい」と食べていた姿…。私たちに励ましの言葉をかけて、いつも皆の事を気に掛けて下さった優しいエミさん、ありがとう」

《担当 高橋太樹》

秋晴れの中、2名のお年寄りと5名の職員でお寺に行ってお参りしました。参拝のみでしたが、お寺の空気に触れ、安堵の表情が印象的でした♪



碧祥寺報恩講参拝
11/6

松岡由美先生による「防災研修」

春に感染症対応研修(オンライン)で好評だった松岡先生に、今回は西和賀入り頂き、「動機付けなき防災取り組みは定着しない」と題してご講演賜りました。

【10月15日】



「講演の中から印象的な言葉を…」

① 防災を考える事は、リスクマネジメントそのもの。本気で訓練していないと、有事でできる訳ない。訓練で沢山の失敗をして、分かってなかった事、できていない事を確認。うまくいくための訓練ではなく、失敗から学ぶ訓練。

② 火災の際、何故「走るな」と言われるのか？一酸化炭素は軽いから上にいく。下に沈んでいる貴重



な酸素を減らしてしまいうから。

④ 被災地で「相談がない」問題がない。相談がない。何を相談していいか分からない事と信頼のない所に人は相談しない事。

⑤ 「心のケア」は専門家が技法をもって聞く事ではない。話を聞き出すのではなく、ただ拝聴させて頂く心得。

「事故防止・事故対応」グループワーク

実際の介護現場で起こり得る「浴室までの誘導から、着脱・入浴介助・居室への誘導までの事故防止・事故対応を考える」をテーマにグループワークをしました。

【10月24日、25日】



実際の入浴現場で起こり得るリスクを、参加者で出し合い、対応策まで話し合う研修。

初日に調整できなかった時間配分や内容の深掘り。その反省に立ち、2日月は修正し、充実の研修となった。ここでも失敗から学ぶ姿が見れた。

学びの秋♪ 職欲(?)の秋! 充実の... 『苑内研修』

想...

災害を捉える

～岩手から発信します～

人が人を傷つけあう『人災』を考える … 太田宣承

今回は、次の筆者への継ぎとしまして、光寿会理事長による投稿とさせていただきます。「箸休め」的ではありますが、皆様と一緒に考えて参りたい気持ちで書いてみました。

人が人の命を奪うこと。現代、この行為は、どの国であっても重罪である。…にも拘らず、毎日、世界のどこかで多くの痛ましい事件や後を絶たない。今年の衝撃ニュースで言うならば2つ。

- ① ロシアのウクライナ侵攻
- ② 安倍元総理の暗殺

この2つの出来事は、あまりにも深い悲痛と衝撃を与えた。

一つ、ロシアとウクライナの戦争。あまりにも身勝手なロシアの横暴ぶりは、世界中が唖然とさせられ、フェイクニュースや嘘を正統化しての戦争を起こし、多くの民間人の命を奪った重罪は救いようもなく、憤りを覚えるばかりだ。何の擁護もできない。

逆に、正当防衛で戦わざるを得ないウクライナの方々は気の毒ではないかもしれない、自分の家族や友人を失った悲しみや悔しみの深さは計り知れない。自分の故郷や家族をあり様な形で失ったことのない私には、到底分かり得ない感性があることを想像するのである。

しかしながら、命を奪う・失う…という点においては、ロシアも

ウクライナも同じ重さである。罪の重さは違えども、命失う重さに差はないはず。…そして、一度戦争が始まれば、その命すら失われたいく。戦場では、戦士同士の命を奪うことは殺人にはならない。こんな信じ難い大義名分が饒々と立てられていく。…そんなことはない。殺人は殺人でしかない。そして双方とも、「自分の正しさを絶対として戦争を起こしている皮肉とも言える実状を、決して無視してはならないと私は思う。

では、元首相の暗殺はどうか？誰か見ても、あの暗殺者は重刑に処されるべきと感じていることだろう。当然、そう処するべきかと私も思う。しかし、彼をあり行動に向かわせてしまった背景にあるものをないがしろにして考察してはならないのではないか。

勿論、暗殺という結果は最悪ではない。けれど、彼の行為を生み出してしまったものを考える。と、対人関係から経済環境、教育環境から信仰の問題等々幾多もある。その幾多の終みあり環境が生み出す現代人の「心の闇」こそが、

大きな問題と言えないか。この大きな問題をケアする存在の欠如。暗殺行為は縁遠いと思っいる私の中にも、彼の心の闇と類似したものが見え隠れしている。では、何が違うのか。

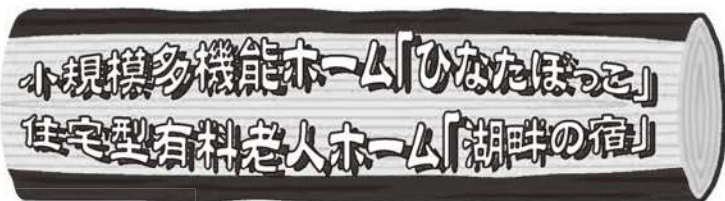
あの行為に及ぶまごには、無数の要因と縁が重なり合っている。宗教は元来、心のブレーキの役割を果たすもの。彼には、そのブレーキとなる縁が人生の分岐点に存在しなかったのだと言えらるだろう。

私には、ブレーキになる縁が日々のなかで沢山存在する。家族然り、生きている環境然り、そして、親鸞さんの出遇われた仏教がある。この違いは大きい。大きいけれど、このブレーキの効果も、違う縁が幾つも重なりあえば、三悪道にも変貌を遂げるかも知れない。それほど弱く愚かで、表裏一体の存在が人間なのではないだろうか。

本音 正しさとは何か？ その字の如く、「一つ止まる」心を持ち、「間」を置いて相手をよく奪ぶこと。奪ぶところに、悲しく痛ましい人災は訪れにくいのだと、私は思う。



今月の登録者の方々
13 名様です♪



かめ虫さんと共に過ごす秋笑 … 「ひなたぼっこの日常」



右上：保育園児と窓越し面会♡ 左上：仲良くくろみ搦り♪ 下2枚：夜間防災訓練！

お
が
げ
さ
ま
で
し
た

寄 贈 [左:光寿苑、右:ひなたぼっこ]

- ★ 匿名 様 [西和賀町]
- ★ 佐々木 勝子 様 [太 田]
- ★ おおしま商店 様 [湯 本]
- ★ 和賀クリーニング 様 [北上市]
- ☆ 高橋 康文 様 [新 町]
- ☆ 熊谷 富夫 様 [湯 本]
- ☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
- ☆ 高橋 美智子 様 [上野々]
- ☆ 羽柴 陽子 様 [上野々]
- ☆ 石川 アチ 様 [上野々]
- ☆ 田村 義光 様 [上野々]
- ☆ 佐々木 里子 様 [北上市]
- ☆ 杉谷 裕子 様 [横手市]
- ☆ 高橋 恵美子 様 [北上市]

寄 附

- ★ 匿名 様 [西和賀町]
- ★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

面会・外出 [10月分]

- 【★面会】… 家族等
対 面 延べ21組 (64名)
- 窓越し 延べ 3組
- オンライン 延べ 1組

訪問・実習

- 10月15日『研修参加』
- ★ 松岡由美先生 [大阪市]
- ★ 光寿苑家族会役員 … 3名
- 10/17~11/4『介護実習』
- ★ KTS2年生 [北上市] … 1名

光
寿
会
へ
の
ご
支
援

へよひついでそへ 『共生の場』

【光寿苑の新しいお仲間をご紹介します】



菅原タミ子 さん

*西和賀町
*昭和のお生まれ



田村 咲子 さん

*西和賀町
*昭和のお生まれ



**実習生さん、
ありがとうございます♪**
北上福祉教育専門学校2年生の高橋辰光さんが、介護現場での実習のため、2週間お手伝い下さいました。2回目という事もあり、落ち着いてお年寄りと関わって下さいました。おかげさまでした。



職員募集中

光寿会では、お年寄りの人生に寄り添って、一緒に楽しんで下さる方をお待ちしております(^_^)

- ☆介護職員 (資格不問)
- ☆調理職員 (")
- ☆看護職員 (有資格者)
- ☆管理栄養士 (")

第283号 光寿の花



イラスト：1000

この言葉は、ご逝去されたお年寄りの息子様奥様のおっしゃったもの。お葬式まで8日も待たさなければ、多くの人はブーブー言うことだろう。しかし、義母様のあり方の姿を想起して、これ以上おれと言えない広い御心。きっと、先代の心もこのように大らかなったのかな。

思い切りがたきは

思愛の絆なりけり

小林一茶

第82回 丸田善明

自然法爾 (じねんほうに)

紅葉宿 【夢佛】

父を偲んで経を読む

今日は父の67回忌の祥月命日。87歳の老柳(老僧)も、今日には65歳のあの日に戻る。あの日のことは、片時も忘れたことはない。父は「諸行は無常なり」ということを全身で示して浄土に帰り、その日から、この事實は生きた經典になった。

冒頭にあげた言葉は、俳人・小林一茶のもの。一茶は、66歳で初めて女の子を授かるが、この子は翌年、天然痘で亡くなる。このことを中心に、一年間の出来事をまとめたのが、

俳文集「おらが春」である。

そのシーンを現代文にして紹介しよう。

「おらが春」

母は死顔にすがって、

よよよと泣くのはもつとものことだ。こ
うなつてしまえば、流れまる水は再び帰ら
ず、散る花は梢にもびることはないと言
たつてもりでも、思い切りがたいのは、思
いの絆のためだろう。

思愛の絆とは親子の結ぶつきのこと。他人
のことなら「仕方ない」で済むが、こころ
親のことになれば済むはずがない。「思愛の
絆」は人間業の最たるものだ。(11月1日記)

おわりに

先月、元朝日新聞社の局長をされていた木瀬公二先生のお話を拝聴した。先生が筆をとられた10年前の記事が紹介された。被災地で何度も立ち上がる法律の壁。

「食べるものがない時に、婦人会は手を真赤にしなから毎日約3千個のおにぎりを握り続けた。活動を知らなかった保健所は、調理場の許可状況を確認したり、「食中毒は大丈夫か」と声を掛けた。災害救助法では仮設住宅に配る暖房器具は対象外。法律は本来、人かららしく暮らすための「道具」であるはずだ。おのたけい絆は、法律の家来になるな。法律を使う主人公になれ」と仰った。

※ルールもその時々で考え見直す力が必要